

# 安全データシート

作成: 2005年 3月 8日

改訂: 2022年10月12日

## 1. 製品及び会社情報

整理番号	: KF087-04
製品名	: ダイアメリットDF
会社名	: クミアイ化学工業株式会社
住所	: 東京都台東区池之端 1-4-26
担当部門	: サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課
電話番号	: 03-3822-5180
FAX番号	: 03-3823-6830
緊急連絡先	: 同上
推奨用途及び使用上の制限	: 農薬

## 2. 危険有害性の分類

最重要危険物有害性及び影響

GHS分類

健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 区分2A
	皮膚感作性	: 区分1
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期（急性）	: 区分1

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語: 警告

危険有害性情報

- ・強い眼刺激
- ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

- ・水生生物に非常に強い毒性

#### 注意書き

##### 【安全対策】

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

##### 【応急処置】

- ・眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。
- ・皮膚に付着した場合は、多量の水で洗うこと。
- ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・漏出物を回収すること。

##### 【保管】

- ・施錠して保管すること。

##### 【廃棄】

- ・内容物、容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別:混合物

化学名:5-(2-アミノ-5-*O*-カルバモイル-2-デオキシ-L-キシロンアミド)-1-(5-カルボキシ-1,2,3,4-テトラヒドロ-2,4-ジオキソピリミジニル)-1,5-ジデオキシ-β-D-アロフランウロン酸亜鉛塩/一般名:ポリオキシン複合体  
1,1'-イミノジ(オクタメチレン)ジグアニジン=トリス(アルキルベンゼンスルホナート)  
/一般名:イミノクタジンアルベシル酸塩

成分及び含有量:ポリオキシン複合体	15.0%
イミノクタジンアルベシル酸塩	12.5%
<その他> 含水非晶質シリカ	4.6%

その他鉱物質微粉等

化学式:  $C_{17}H_{25}N_5O_{13}$  / ポリオキシン複合体

$C_{72}H_{131}N_7O_9S_3$  / イミノクタジナルベシル酸塩

$SiO_2 \cdot nH_2O$  / 含水非晶質シリカ

官報公示整理番号: 安衛法 4-(5)-617

イミノクタジナルベシル酸塩

CAS No.: 19396-06-6 / ポリオキシン複合体

169202-06-6 / イミノクタジナルベシル酸塩

112926-00-8 / 含水非晶質シリカ

4. 応急措置

吸入した場合: 被災者を直ちに新鮮な空気のある場所へ移動し、衣服を緩めて深呼吸させる。汚染された衣類や保護具を取り除く。多量に吸入した場合には医療措置を受ける。

皮膚に付着した場合: 汚染した衣類、靴などは速やかに脱ぎ捨て、製品が付着した部分を水またはぬるま湯で十分洗い流し、石けんを使って洗浄する。

眼に入った場合: 直ちに清浄な流水で十分に洗眼し、医療措置を受ける。

飲み込んだ場合: 被災者を安全な場所へ移動し、直ちに医療措置を受ける。口に残っているものはぬぐったりして除去した後、多量の水や牛乳を与えて吐き出させる。ただし、被災者に意識のない場合は、ものを与えたり、吐き出させたりしてはならない。

5. 火災時の措置

適切な消火剤: 水、強化液、泡、二酸化炭素、ハロゲン化物、消火粉末を放射する消火器。

特定の消火方法: 初期の火災には、水、粉末、炭酸ガス消火器、乾燥砂などを用いる。

大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護: 燃焼または高温により有毒ガスが生成するおそれがあるので、呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には保護具(8. ばく露防止措置欄参照)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を避難させる。

環境に対する注意事項: 流出した多量の製品が河川等に排出され、環境への影響を起さないように注意する。

除去方法: 飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。真空掃除機で吸い取るなど粉塵が飛散しない方法で取り除く。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取り扱い

技術的対策: 取り扱う前には必ずラベルをよく読む。取扱いは換気のよい場所で行い、粉塵、ガスのこもりやすい場所では取り扱わない。漏れ、あふれ、飛散が無いようにし、みだりに粉塵、蒸気が発生させない。通常の取り扱い方法では危険性は低いが、誤飲・誤食などないように注意する。本剤取り扱い中に身体の異常を感じた場合には、直ちに医師の手当てを受ける。取扱いの際は保護眼鏡、農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。取扱い後は手足・顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。散布液や残液はなるべく使い切り、河川、湖沼、養魚地などに捨てない。

### 保管

適切な保管条件: 直射日光をさけ、低温で乾燥した場所に密封して保管する。異種物質の混入をさけ、火気、熱源から隔離する。

## 8. ばく露防止措置

設備対策: 作業場の空気を汚染しないように、局所排気装置の設置、設備の密閉化または全体換気を適正に行うことが望ましい。

管理濃度: 設定されていない。

### 許容濃度

日本産業衛生学会（2006年版）吸入性結晶質シリカ: 0.03 mg/m<sup>3</sup> 吸入性粉塵  
ACGIH（2006年版）TLV-TWA 0.025mg/m<sup>3</sup> A2

### 保護具

呼吸用保護具: 防塵マスク

手の保護具: 保護手袋(ゴム手袋)

眼の保護具: 保護眼鏡(側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具: 作業衣、帽子、保護服、保護長靴

## 9. 物理・化学的性質

外観等	: 褐色細粒及び微粒
臭い	: 情報なし
pH	: 7.9
融点/凝固点	: 情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: 情報なし
引火点	: 情報なし

自然発火点	: 情報なし
可燃性	: 情報なし
爆発下限及び爆発限界上限界／可燃限界	: 情報なし
相対ガス密度	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
密度及び／又は相対密度	: 情報なし
溶解度	: 情報なし
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	: 情報なし
分解温度	: 情報なし
動粘性率	: 情報なし
粒子特性	: 情報なし

#### 10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし
化学的安定性	: 常温・常圧で安定
危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 情報なし
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: 情報なし

#### 11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報: 経口、吸入、経皮、眼

製品

急性毒性(経口)	: ラット(♂) LD <sub>50</sub> >2,000 mg/kg [区分に該当しない]
急性毒性(経皮)	: ラット(♂ ♀) LD <sub>50</sub> >2,000 mg/kg [区分に該当しない]
急性毒性(吸入)	: 情報なし
皮膚腐食性／刺激性	: ウサギ 刺激性なし [区分に該当しない]
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: ウサギ 強度の刺激性(洗眼効果あり) [区分2A]
呼吸器感作性	: 情報なし
皮膚感作性	: モルモット 感作性あり [区分1]
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発がん性	: 情報なし
生殖毒性	: 情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 情報なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 情報なし
誤えん有害性	: 情報なし

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）：藻類のデータに基づき区分1とした。

生態毒性

魚類 : コイ LC<sub>50</sub> 16 mg/L (96h)

甲殻類 : オオミジンコ EC<sub>50</sub> 1.7 mg/L (48h)

藻類 : 緑藻 ErC<sub>50</sub> 0.098 mg/L (24-72hr)

残留性・分解性 : 情報なし

生体蓄積性 : 情報なし

土壌中の移動性 : 情報なし

オゾン層への有害性 : 情報なし

その他 : 水産動植物に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

## 13. 廃棄上の注意

使用量に合わせて薬液を調製し、使い切る。容器の洗浄水等は河川に流さない。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後処分する。

## 14. 輸送上の注意

移送取扱いは丁寧に行う。

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輛、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類 : クラス9(有害性物質)容器等級Ⅲ

国連番号 : 3077(環境有害物質、固体)

国内規制

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

陸上規制情報 : 道路法の規定に従う。

## 15. 適用法令

農薬取締法 : 登録番号 第21355号

消防法 : 非該当

労働安全衛生法 : 非該当

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)

: (2023年4月1日以降)

第一種指定化学物質 30 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸  
及びその塩(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びそ  
の混合物に限る。)

毒物劇物取締法 : 非該当

## 16. その他

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関  
して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常の取り扱いを対象としたも  
のであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害  
性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意してください。

使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

- 引用文献: 1) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法  
2) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針  
2019年6月 社団法人 日本化学工業協会  
3) 農薬中毒の症状と治療法 第19版 2022年4月 農薬工業会  
4) GHS文書 改訂第6版(2015年)

## 作成部署以外の連絡先

(財団法人)日本中毒情報センター

大阪(年中無休、24時間) 一般市民向け相談電話(無料) 072-727-2499

医療機関専用有料電話 072-726-9923

つくば(毎日9時~21時) 一般市民向け相談電話(無料) 029-852-9999

医療機関専用有料電話 029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。

※ 弊社製品に関する問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の利用料(1件 2,000円)は弊社が負担いたします。